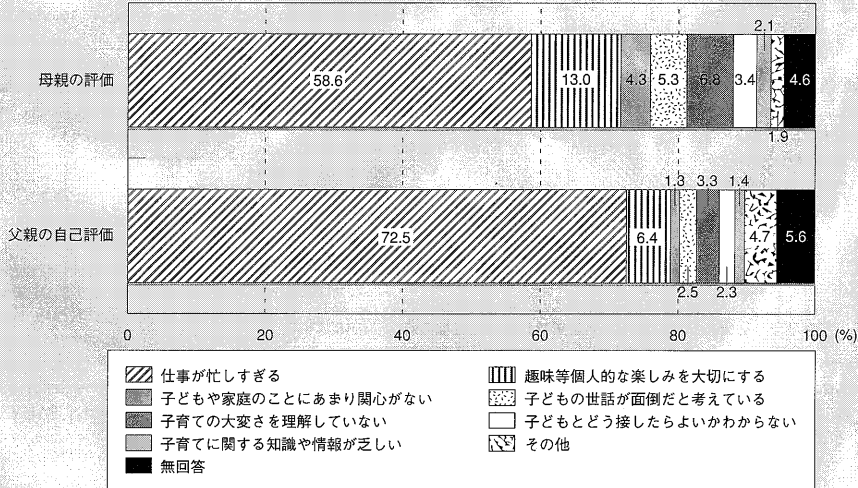
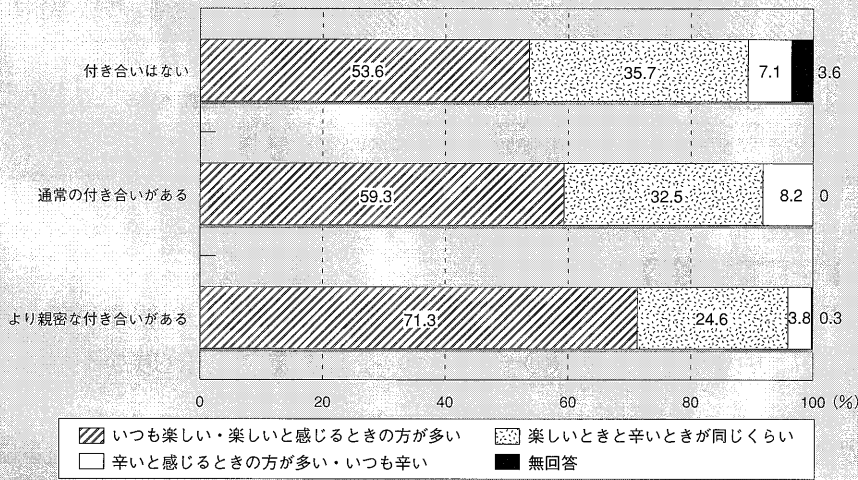


図表2-2-5 父親の子育てへの関わりが十分でない理由



資料：(株)UFJ総合研究所「子育て支援策等に関する研究調査」(厚生労働省委託2003年)

図表2-2-6 子育てを通じた付き合い別母親の子育ての楽しさ



資料：(株)UFJ総合研究所「子育て支援等に関する調査研究」(2001年)

(子どもの育ちの現状)

- 1990 (平成2)年と2000 (平成12)年で比較すると、子どもの行動範囲は自分の家や家の周りといった非常に狭いものになってきている (図表2-2-9)。また、遊び友達も1986 (昭和61)年には6人以上と遊ぶものが32.4%、2~3人で遊ぶものが27.2%であったが、2001 (平成13)年には6人以上で遊ぶものが18%、2~3人で遊ぶものが32.8%となっており、交友関係も狭くなってきている。
- 6歳以下の子どもの就寝時間を過去と比較すると、2000 (平成12)年には2歳児の6割が午後10時以降に就寝するまでになっており、子どもの生活が夜型化してきている。
- 近年、少年犯罪の背景としていわゆる「キレる」子どもが問題となっている。キレ易くなる要因として、睡眠不足、イライラするなどのストレス、疲労・負担感が指摘されており、子どもの生活習慣の乱れがこうしたキレる子をはじめとする思春期の心の問題に影響を及ぼしていることがうかがわれる。

<子どもの育ちにおける課題>

- 子どもとの接触経験の不足などにより、現在の親たちは「親」になるための育ちの場・機会が不足している。高齢者との世代交流も含め、子育て期の親子が集まるひろば事業など地域における親の育